

飛鳥 ASUKA KAWARABAN
かわら版

2025年
10月

秋月号

第218号

発行所 株式会社 飛鳥 出版室
発行人 永野 正将
ADD: 〒780-0945 高知市本宮町65-6
TEL: 088-850-0588
MAIL: info@asuka-net.jp



表紙写真撮影 夕暮れの新月橋：株式会社 飛鳥

もくじ

新聞余話 ㊟ 大澤重人 02
おのころじま奮染記 36 田島征彦 03
最初の歌文集『山脈遥か』を出して… 佐竹峰雄 04

中村主水・飛鳥、地獄の庭手入れ 05
広告 06
さもないこと ㊟ 永野雅子 08

わたしごとの戦争



私には反省があります。

新聞記者の使命はなんぞや。ひそかに考えていたのは、この国に二度と戦争を起こさせないこと。ヘッポ

コ記者の力なぞたかが知れていますが、戦争体験者や被爆者から聞き取り、軍部を批判する記事を書いてきたつもりです。県内では、戦地から家族に届いた手紙を書籍化した高知ミモザの会の活動を取材し、行間にはじむ家族愛から戦争の無情さを実感しました。旧陸軍と中国・八路軍の従軍看護婦だった高橋いと志さん(故人)からは、苦境をひょいっとくぐり抜ける人間の強さを教えてもらいました。外国人との共生や自死問題など、戦争に関係しない記事も、根底では非戦につながっていると考えました。平和でない身近な事象が巡り巡って、外にはけ口を求めるとき

退職してから、軍部の批判だけでは不十分だったと気付きました。

作家の村上春樹さんが、

1995年の地下鉄サリン事件の被害者62人にインタビューし、『アンダーグラウンド』という優れたノンフィクションを発表しています。あとがきにこんなことを書いています。狂気のオウム真理教と、無垢なる被害者。正義と悪に分けて、オウムばかりに報道の焦点が当たりましたが、「あちら側」を徹底的に分析するだけでは足りず、「あちら側」の謎を解く鍵は「こちら側」の地下に隠されているのではないかと。

戦争報道も同じではないでしょうか。戦前の軍部は批判されるべきですが、その軍部を生み育んだ土壌、ひいては支持・黙認した「こちら側」、つまり「わたしたち」にもメスを切り込まないという意味がなかったのです。大陸への進出や、朝鮮などの植民地支配を誰が歓迎したのか。偏った情報しか得られず、洗脳されるなどして正しい判断をしにくかったこともあるでしょう。しかし、戦争に反対する隣人を非国民とそしり、「進め一億火

の玉だ」と唱和したのは誰なのでしよう。

わたしであり、あなたでもあったのです。

しかし、80年ほど前のことであっても、自らの非を改めて指摘されるのは面白いものではありません。苦労をした戦争体験者に「あなただって戦争に反対しなかったのでしょうか」。今という安全地帯に身を置きながら、そうは尋ねにくいものです。「わたしたち」の姿勢を問い、その加害性を指摘する記事はなかなか目にしません。しかし、再び戦争を起こすか起こさないか、鍵を握るのはわたしたちの意識です。瞬時に国民を扇動しかねないSNSがあるいま、さらに厄介です。

敗戦からちょうど80年となる8月15日に新刊を出しました。

『裸足で越えた三八度線―「死滅の村」からの引き揚げ』（富山房インターナショナル刊）。朝鮮半島を南北に二分する38度線がソ連軍に封鎖され、朝鮮北部にいた30万人近い同胞は極寒の地での越冬を余儀なくされ、生き地獄を味わいました。《はしがき》でこう問いました。

ソ連軍だけが悪いのか。いや、種をまいた国がある。

さらに本文の中では、その国を支持したのは誰か、とも。

記者時代の反省をどこまでいかけたか、心もとなくはありますが、記者でなくなっても、その使命は忘れていないつもりです。



朝鮮北部から引き揚げ、高知県に長く暮らした早野朝子さんの絵。朝鮮の釜山港から帰国する場面。拙著に収録



大澤 重人

おおざわ・しげと

渡来人歴史館(天津市) 専門員、元毎日新聞高知支局長

高橋いと志さんの体験は『泣くのはあした―従軍看護婦、九五歳の歩跡』（富山房インターナショナル刊）を参照。

おのころじま 染木記 ふんせんき

36.「じごくのそうべえ」ものがたり

① 中川正文先生

田島 征彦

絵本「じごくのそうべえ」は、
ぼくが今まで出した絵本の中で、
とび抜けて知られています。一
番売れている絵本です。本当の
ハナシ！「じごくのそうべえ」
がなければ、ぼくは、ほとんど
無名の絵本作家でしかありませ
ん。その絵本は一九七八年に出版
されました。47年前のことです。
処女作「祇園祭」の次に描
いた2番目の絵本です。

「じごくのそうべえ」を創るき
っかけは、中川正文先生でした。
当時、中川先生は関西の児童文
学者の重鎮でした。
一九五九年、ぼくは京都市立
美術大学、染織図案科に入学し
たが、染織に興味が湧かず、京

都美大をやめて、他の美大を受け
直そうかと迷っていました。そんな
時、先輩に誘われて、劇団美大
アトリ工座舞台美術集団に入りま
した。授業へはあまり出ず、アト
リ工座の小屋で大きな張
り物に絵の具を塗ったり、
古い舞台装置から抜き出
した曲がった釘を、セメ
ントのタタキの上に並べ
て、伸ばしたりすることに
夢中になっていました。

そんな時、先輩たちに連
れられて、美大の隣にあ
る、京都女子大の児童文
化学科へ通うことになっ
たのです。

そこでは、12m×3m
の巨大スクリーンで影絵
を上映していました。ベ
ニヤ板を切り抜いた大き
な切り絵を女子大生たち
が汗だくで動かしていま
した。ベニヤ板を切った
り、色を塗ったりする手
伝いをするのがぼくたちの仕事な
のです。一年経ち二年経つうち
に、影絵のデザインを頼まれるよ
うになってきました。その「京都
女子子どもの劇場」の主宰が京都

女子大教授の中川先生だったので
した。
それから、ぼくは美大を卒業し
た後も、中川先生に頼まれては、
影絵のデザインを何本か担当しま



した。ぼくが初めて、子どもの文
化に出会ったのが、正に中川先生
の「子どもの劇場」なのです。先
生とは20歳も離れているのに、影
絵の演出やデザインのことでは本気

でケンカをしました。かなりキ
ツイ言葉を投げかけたものでし
た。それを、先生はニヤリと笑
って、ほとんど相手にしてくれ
ませんでした。

それでも、処女作の「祇園祭」
(一九七六年)のテキスト(文)は、
ずいぶんと先生に手伝ってもら
いました。
その絵本が、海外の賞をいただ
いたあと、先生は喜んでくれて
「今度はわしと一緒に絵本をやら
へんか。地獄を絵本にしないか？」
と言ってくれたのでした。



田島 征彦
たじま・ゆきひこ
染色家・絵本作家

大阪府堺市出身。少年時代を高知県で過
ごす。京都市立美術大学染織図案科専攻科
修了。一九七八年『じごくのそうべえ』で
第一回絵本にっぽん賞。二〇一五年『ふし
ぎなどもたち』で第二十回日本絵本大賞。
沖繩の子どもたちを主人公にした「やんば
るの少年」の次には沖繩戦を題材に、子
どもたちに、戦争のことを、平和の大切
さを伝える絵本「なきむしせいとく」が
二〇二三年度の講談社絵本賞を受賞した他、
国際的な評価を受けました。

※「おのころじま」は淡路島の古代のよび名

最初の歌文集

『山脈遥か』を出して

佐竹峰雄

十月一日付で歌文集『山脈遥か』を出版した。大部分はこの五年間に詠み書きしたもので、短歌約三百五十首、散文二十篇を収めた。数年前まで自ら本を出すなどということはまったく念頭になかったことである。

二〇一八年に仕事の第一線から退いて時間的な余裕ができて高知文学学校に入学し、二〇二〇年か



四六版 (127×188) 184頁
制作・飛鳥出版室
私家版

らはすすめられて短歌を始めた。詠んだ短歌は一定数たまってきたし、またいろいろの機会に書いた散文、エッセイの類もあった。この間、親しい先輩や友人を亡くし、その思い出を残しておきたいという気持ちもある。加えて後期高齢者になって二年、身体のうちこちが老朽化して手術を重ねて、これまでは遠く思えた死が意外と近く

にあることも実感するようになった。かつて歴史家の色川大吉先生が「自分史」を提唱されているのを読み、私も他の人に書くことをすすめたりしたが、自分も何らかのものを残すべきと考えた。加えて、昨年は結婚五十周年の節目を迎えたので、その記念もかねた。

そうしたさまざまの動機から、急に出版を思い立った。そうなる出版は、日頃短歌誌『海風』の発行でお世話になっている株式会社飛鳥にお願する以外にない。『海風』の先輩の山本晶子さん、叶岡淑子さんも歌集を出しているし、友人、知人も著作を多く飛鳥から出版している。

原稿はほとんどがパソコン、USBに残っていて、集めるのにそれほど苦労はなかった。ただ、短歌が拙いのもともとより、寄せ集めであるからいかにも統一性に乏しいのはやむを得ない。『師匠』の梶田順子さんに序文を書いていただき、なんとなく本の格好がついた。

歌文集は、飛鳥の川田さんに懇切丁寧に援助いただき、予定通り出来上がった。さっそく、親しい友人、知人に手渡したり郵送でお



届けしている。その後、多くの手紙、はがき、電話、メールをいただいている。表紙を飾った孫娘の絵が好評で、中身の評価をはるかにしのいでいて、苦笑するばかりである。生まれて初めての本の出版、おそらく最後になると思うが、短歌づくりと読書の感想を綴ることとは続けていきたい。

佐竹 峰雄

さたけ・みねお

一九四八年香南市生まれ。高知高専工業化学科卒。ニッポン高度紙工業(株)勤務を経て、日本共産党専従職員となり、二〇〇四年から十三年間高知県議員、その後六年間国會議員団四国ブロック事務所勤務して二〇一三年に退職。二〇二〇年から海風短歌会、新日本歌人協会高知支部「土佐みずき」に入会、現在『海風』編集委員。

中村主水

飛鳥 印刷部 中村

チャララーン♪このBGMといえば…必殺シリーズの「中村主水」。私は大ファンです。
ちなみに私の苗字も同じ中村です。(笑)

必殺シリーズは1972年9月〜1980年代後期までテレビ放送され、お茶の間や大衆に受ける作風で、毎回ワンパターンながらも心に残る時代劇の長寿番組で、人気を誇ったシリーズです。

私が小さい頃の金曜日の夜2時から番組放送をしていました。野球中継が30分延長になっても、眠たいのを何とか我慢して毎週の放送を楽しみにしていました。
主人公の「中村主水」は、昼はうだつのあがない町



方の役人で昼行燈、夜になると裏稼業の仕事人、今でいうとダークヒーロー。このギャップと存在感が凄みを増して、今見ても鳥肌が立ち身震いがします。

もいい味が出ています。飾り職の秀、三味線屋の勇次など、登場人物は数知れず。脇が主役を固めています。
古き良き作品で「義理、恩義、仁義」など、この作品シリーズには現代社会が失いつつある大切な何かが詰まっていると思います。

今の時代、コンプライアンスが厳しい時代だからこそ皆さんに観てほしい作品だと思っています。
新しいリメイク作品は年に一度くらいやっていきますが、やっぱり誰が何と言おうと私が観ていた必殺シリーズの「中村主水」の記憶が鮮明に残っています。

葉、他の時代劇の人物とは全く違います。
深み、凄み、渋み、男の色気。「中村主水」という人物全てがかっこいいんです！色んな人の思いを背負った「中村主水」は唯一無二の存在です。脇役

が進化しても、音響機器が良くなっても、この感動は忘れられません。
今はユーチューブ、DVD、サブスクリプションなどで視聴出来るので、皆さんもこの感動をいかがでしょうか？

飛鳥、地獄の庭手入れ

7月5日(土)、飛鳥恒例の夏の清掃と合わせ、茹だるような暑さの中、雑草だらけの庭を手入れしました。はつきり言って命がけ。

雑草や木の根っこを土を掘り起こしながら取り除く作業です。

みんな暑さに耐えきれず、10分おきに社屋の陰で体を休ませながら交代で作業を進めますが、最後の方には誰も陰から出てきません。(笑)



それでもなんとか全ての雑草、根っこを取り除き、そこに花を植えて可愛い花壇が完成しました！



従来はオフセット印刷が主流だった白版印刷。一定の部数以上でなければ利用出来ないものでした。

クリアも白も、手軽にPODで!

Print on Demand

名刺・DM・フライヤー・パンフレット・POP・カード・封筒など…個人や仕事にかかわらず
クリアやホワイトをデザインに取り入れて Original / Premium / Stylish / Variation
「より魅力的なアイテム」制作、試してみませんか?



クリア印刷

ニスやラミネートのような光沢感のクリアトナー。デザインの上での光沢コーティングや、コピーできないという特徴から偽造抑止に活用など、使用方法はアイデアの数だけ広がります!



ホワイト印刷

黒や濃色のメディアに白でデザインや文字を印刷することで特別感のある印刷物に! また、特殊メディアとの相性バツグン! アルミ蒸着紙などのメタリック調を活かしつつデザインすることも可能です。

必要な時に必要な数だけ
という「**おトク**」

必要なアイテムを必要な数だけ。
足りなくなればリピートもカンタン。
【小ロット/低コスト/短納期】を
可能にするPOD活用のご提案です。



RICOH Pro C7200SHT

多彩な用紙で、多彩な表現を。 普通紙やコート紙のほか、凹凸紙などに対応。立体POP、リーフレット、メニューなど、多彩な活用はアイデア次第! ※紙によって印刷相性があります。事前にご相談ください。

幅広い用紙サイズ 100×139mm～330.2×487.7mmまで対応。さらに長尺印刷(片面時)は、最大1,260mmまで対応し、A4三つ折りのパンフレットや店頭バナー等も制作可能です。

中綴じ製本 小ロット(1冊～)からOK!表紙と本文の紙替なども対応可能です。
※最大20枚(80p)程度まで(用紙種類、紙厚などのご使用条件によって異なる場合があります)

封筒への印刷OK! フルカラー印刷のオリジナル封筒など、小ロットから印刷できます。
※セロハン窓等の熱で溶ける仕様のものはプリント不可です。



お問い合わせ・お見積もり・ご注文は……………株式会社 飛鳥まで

お気軽にご相談ください

Sustainable Development Goals

私たち、株式会社 飛鳥は SDGs(持続可能な開発目標)に 取り組んでいます。



■ SDGs宣言書



弊社の「SDGs宣言」に対して認定書をいただきました！

■ 実質再生可能エネルギー100%電力



弊社の使用する電力は「再生可能エネルギー指定の非化石証明書の使用により、実質的に再生可能エネルギー100%」の電力の契約となっております。

■ 環境保全活動『Green Graphic Project』参加



富士フィルム環境保全活動『Green Graphic Project (GGP)』に参加し、「カーボン・オフセット証書」を発行されました。

当社は、2017年より富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社様のCTPを使用し、2022年のCO₂削減量は7,421kgとなりました。
(2021年6,286kg、2020年8,549kg、2019年9,329kg)

■ 中小企業家同友会全国協議会 同友エコ奨励賞



■ 経済産業省中小企業庁「事業継続力強化計画」認定



お墓参り

永野 雅子

今年もお彼岸の中日、お墓参りに行く。ありがたいことにいつもこの時期になると「墓参りはいつにする？」と、息子から声をかけてくれて、今回も総勢七人で参加。三カ所を回るの如花や榊、お供えものを前日から用意する。

スパーには墓参り用のコーナーが出来ていて、見ると花は普段より高い。「小菊が一束五百円、高っ！もつと安いのは…。」「お菓子は孫の好きなものを」「ビールは100ml缶で」などとあれこれ品定めをしている内に、お供えものをケチるなんてご先祖様に叱られそうな気がしてきた。自分の好きなものには儉約など考えないのに、「いつも守っていただいてありがとうございます」などと言いながら、なんとという事！

結局、百合も菊も入れて、沢

山の買い物をして帰る。当日は心配したお天気も良く、一安心。

先ずは永野家のお墓、山の前にあり、息子に手を引かれ、孫に背中を押してもらって急な斜面を上がる。皆で手分けして掃除、お供えと、人手があるのは有難い。

孫の、「お菓子は袋を開けて、食べれるようにしてあげんと」という言葉にびっくり。今まではそのままお供えして、終わったら持って帰るからと気付きもなかった。

聞けば、YouTubeで調べたとか、そんな事までネットでわかるのかと時代を再認識する。それからは家でも、プリンや羊羹など袋を剥がしてスプーンを添えてお供えするようになった。

こんな大事なことを孫に教えてもらおうとは。来年は大学生、成長したものだ嬉しくなる。

こうして元気で幸せに暮らし

ていることを報告して感謝で手を合わせる。

帰りも孫の、「お父さん、おばあちゃんの前を行って、私が後を行く」という声を聞きながら、「歳をとるのも悪くないわね」。

夫の墓は霊園なので駐車場もあり、綺麗に整備されていて行きやすい。新しく家族になったお嫁さんも手を合わせてくれる。「お父さん、これから見守ってくださいね」と、心からお願い。

次は、私の実家の墓参りを済ませて、清々しい気持ちで帰途につく。

後日、私の誕生日に息子から「嫁さんがお母さんのプレゼントに折りたたみの杖はどう？って聞いてきた」とのこと。墓参りに棒切れをついていたのを見てのことらしい。

一瞬、エッ！と思ったけれど、考えてみれば83歳、最近はずりなしでは階段も上がりにくい日々、ありがたく頂戴することにした。赤いおしゃれなステッ

キに大満足。でもこれがないと外出できなくなる日は来てほしくない。それには足腰を鍛えなくてはと思いつきながら、散歩も暑さを理由に先延ばしにしてきた。

太郎がいる時は毎日散歩ができていたのに、その時間さえも取れにくいのは何故だろう。土佐弁でいう「何をするにも、とろこう（どんくさい）なつて」の所以らしい。あの頃は私も機敏に動いていたなあと思いつく。太郎が逝って三年、そういえば太郎の墓参りに行かなければ…。



永野 雅子
なごの・まさこ
株式会社 飛鳥
常務取締役
著書「わが家の太郎」



「飛鳥かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援しています。

飛鳥かわら版 第218号【秋月号】 飛鳥出版室

●発行所：株式会社 飛鳥 ●発行人 永野 正将
●住所：〒780-0945 高知市本宮町65-6 ●電話：088-850-0588
●メール：info@asuka-net.jp ●ホームページ：https://www.asuka-net.jp